

第1章 学校の現況及び教育理念

〔現状〕

1.1 学校の現状

(1) 対象校名 金沢工業高等専門学校

(2) 所在地 石川県金沢市久安2丁目270番地

(3) 学科等構成

電気電子工学科（定員40名）

（平成21年4月1日電気情報工学科を名称変更）

機械工学科（定員40名）

グローバル情報工学科（定員40）

（平成21年4月1日国際コミュニケーション情報工学科を名称変更）

(4) 学生数及び教員数（平成21年5月1日現在）

1) 学生数（名）

学年	電気情報工学科(D)	電気電子工学科(T)	機械工学科(M)	国際コミュニケーション情報工学科(C)	グローバル情報工学科(G)	合計
1年	2	27	34(1)	1(1)	21(8)	85(10)
2年	33(3)		43	34(5)		110(8)
3年	36		36	32(7)		104(7)
4年	32		47(1)	34(7)		113(8)
5年	32		43	28(7)		103(7)
合計	135(3)	27	203(2)	129(27)	21(8)	515(40)

()内は女子数で内数

2) 教員数（名）

教授 准教授 講師 助教

高専教員	校長	1				1
	電気電子工学科	4	2	2	2	10
機械工学科	7		4		11	
グローバル情報工学科	3	5	2		10	
一般科目	8	6	9	1	24	
計	23	13	17	3	56	

1.2 特徴

金沢工業高等専門学校（以下本校）は、昭和37年に創立され、学校法人金沢工業大学（以下学園）が設置する金沢工業大学（以下大学）と共に、学園が目指す工学アカデミア実現の一翼を担って理念を共有し、5か年間一貫の制度を活用した特色ある教育の実現に努力しています。

本校の最も特徴的な点は、大学との理念の共有と学園が運営する教育及び研究の支援組織を大学と共用し、充実した教育研究環境で学生が学べる点にあります。また卒業後の進路として、大学への編入学に関しても、推薦制度の中で毎年30名を越える学生が金沢工業大学へ進学する等、密接な連携による運営が行われています。

本校の教育面の特色は「ものづくり教育」と「英語教育」にあります。

「ものづくり教育」は、学園がその歴史の中で、一貫して目指してきた現場技術者の養成を目的とするモノづくりを基本とした教育であり、学生の創造性を引き出すエンジニアリングデザイン教育として今日改めて注目されています。

「英語教育」は、技術現場の国際化への対応の必要から力を注いできたものです。今日単位互換による海外留学制度の実現や海外の大学への編入学等の大きな特色となり、グローバル情報工学科は、前身の国際コミュニケーション情報工学科の成果をより進化させたものと言えます。

本校は、多年にわたって培ってきた先の二つの特色の他、現在資格取得教育にも力を注いでいます。本校卒業生が社会に出て、その実力をいかんなく発揮するチャンスをつかむためには、単に学歴だけでなく、現場技術者として資格を持つこととチャレンジ精神の重要性を認識しているからです。

本校は、学園の理念である「人間形成」、「技術革新」、「産学協同」の三大旗標のもと、「人間形成」を教育の根本理念として豊かな人間性の涵養をすべての教育のベースに置くことを教員に求めています。本校が創立以来実施している穴水湾自然学苑教育は、本校の人間教育を象徴する必須の科目として定着しており、卒業生たちの学年をこえた共通の思い出として語られています。

1.3 教育理念と目標

(1) 教育の実践目標

本校は、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育の実践目標とし、5か年間にわたる教育課程や課外における、次の5つの活動を通じて、その実現を目指すものです。

- 1) 「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じてKIT-IDEALSに基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に、「ものづくり教育」「穴水湾自然学苑教育」「池の平セミナーハウス研修」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。
- 2) 21世紀が情報化、国際化が一層進展していく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目指します。
- 3) エンジニアとして必要な知識や技能に係る専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を触発し、自主的、主体的学習態度の育成を目指します。
- 4) 地域産業界や社会との連携を推進し、インターンシップを軸とし地域との連携活動を通じ学生が参加できる教育・研究活動の構築を目指します。
- 5) 学生との共同と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実向上を目指します。

これらはいずれも学園が定める理念や信条、さらにはビジョンに基づいた日々の活動を通じた努力によって初めて成し遂げられるものです。

- ・学園の理念は、私たちに高い志を持つことを求めています。
- ・学園の信条は、私たちに価値の共有を求めています。
- ・学園のビジョンは、私たちに「教育」「研究」「サービス」の卓越性の追究を求めています。

本校は、高い志の中で教育実践の目標を定め、学生、教職員の一致した努力のもと、その取り組みを実施しているものです。

(2) 学園の理念

本校は、学園が定める建学の綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、三大建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

「三大建学綱領」

人間形成：我が国の文化を探究し、高い道德心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成する。

技術革新：我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者を育成する。

産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献する。

(3) 学園共同体の信条

本校は、学園共同体として共有すべき価値を“KIT-IDEALS”として定め、これらに基づく信条を次の通りまとめました。これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することにより、学園共同体の向上、発展を目指します。

K Kindness of Heart 思いやりの心

私たちは素直、感謝、謙虚の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。

I Intellectual Curiosity 知的好奇心

私たちは情熱、自信、信念を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。

T Team Spirit 共同と共創の精神

私たちは主体性、独創性、柔軟性を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。

I Integrity 誠実

私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。

D Diligence 勤勉

私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。

E Energy 活力

私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。

A Autonomy 自律

私たちは、自律することを大切にし、1人ひとりを信頼し、尊敬します。

L Leadership リーダーシップ

私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割における自覚と責任を持ちます。

S Self-Realization 自己実現

私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に臆することなくさらに高い目標に挑戦することに努めます。

(4) 学園のビジョン

私たちは、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が共有する経営理念と価値群に基づく明確なビジョンを掲げ、社会が必要とする教育、研究、サービスの継続的な改善活動に努めると共に、その卓越性を追究し、社会に貢献します。

教育の卓越性:人間形成を目的とする「教育付加価値日本一の学園」を目指します。

研究の卓越性:「共同と共創による技術革新と産学協同の実現」を目指します。

サービスの卓越性:「自己点検評価システムの成熟」を図り、学生を始めとする学園に関係する方々(顧客)の満足度の向上を目指します。

(5) 学園共同体の理解

理念の実現に向けて、学園の理事、教職員は、次のことを理解することが強く求められています。

- 1)工学アカデミアとは、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が学園共同体の一員として行動する際、意思決定の根底をなす価値群である“KIT-IDEALS”を共有し、お互いが必要な知識や技能を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場である。
- 2)教育とは、学生が持つ潜在能力を引き出して総合的に伸ばしていくことにある。すなわち、学生の「知性、感性、徳性」を涵養することである。教育付加価値とは、本校における学習や経験全般から獲得した知識や技能だけでなく、価値観や態度を包含する総合的な「人間力」である。
- 3)学園の活動は、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）や企業、保護者、社会等の要求に応える「サービス」を成熟させ、その卓越性を追究することである。

〔評価〕

現時点において、妥当であると判断しています。

〔改善点〕

ありません。

